

鉄道沿線における地域イメージの構造に関する研究 An Image of Railroad Line Area and Its Structure*

土井 勉**・木内 徹***・三星昭宏****・北川博巳*****・西井和夫*****

By Tsutomu DOI**, Toru KIUCHI**, Akihiro MIHOSHI***, Hiroshi KITAGAWA**** and Kazuo NISHII*****

1. はじめに

経済活動のための基盤整備のような機能中心のまちづくりだけでは、どこの地域も同じような表情になり、人々の地域に対する思い入れが希薄になる危険性がある。それに対して、地域イメージを把握し、地域の個性化を進めることが必要とされる。

地域イメージの研究については、K.リンチ¹⁾に始まり、わが国においても駅前地区を対象にキー・エレメントという概念でイメージ構造の把握を行った志水²⁾を始めとして種々の研究対象や方法について多くの蓄積がある。しかし、これらの研究では地域イメージの構成因子として自然や都市施設など物的なものにウェイトが置かれている。

一方、佐佐木³⁾は、地域の固有性や独自性を発見するためには、物的なものだけでなく地域の歴史的・伝統的・土着的文化を認識し、その地の「風土的心性」の把握を必要と考えている。この考え方の延長上に竹林⁴⁾による文学や民話による方法⁵⁾、西井⁶⁾らによる構成地物の言語連想を用いた地域イメージの構造分析による方法⁷⁾などがある。

本研究では佐佐木³⁾らの考え方にもとづき、言語連想法実験データによるイメージマップの分析手法を用いて地域イメージの把握を行うことにする。

2. 研究の枠組み

(1)地域イメージ形成における社会・文化的要素（「コト」）への着目

地域イメージは多くの場合これまで景観との関わりで研究されてきた。この時、自然や都市施設など物的なものが、イメージの構成因子として操作性の高さ故に中心になることが多かった。しかし、地域イメージは物的なものだけで構成されるものではない。特に地域の個性に注目し、都市像を考える場合には物的なものだけでは不十分である。ここでは、物的な「モノ」に加え、地域の社会・文化的活動等に関するソフトな事柄（「コト」）も構成因子として地域イメージの構造を考察する。

(2)鉄道沿線に注目する意義

本研究の対象エリアは実体的に人々の生活の広がりや意識のくまとまり⁸⁾がある鉄道沿線とする。わが国の大都市近郊の都市開発の多くは鉄道沿線を中心としており、しかも行政境界を越えた地域のつながりを形成している。しかるに、鉄道沿線を切り口にしたイメージ研究はほとんどない。しかし地域の個性化を考える場合、鉄道沿線が持つ個性は無視し得ず、また沿線開発や鉄道高架を行う場合も、その地域イメージを形成する因子を把握することは重要であると考えられる。

(3)普通名詞と構成地物による分析

具体的な研究方法は西井⁶⁾らの制限言語連想による方法⁹⁾を用いるが、用いる言語に関して、今回新たに普通名詞と固有名詞の2種類の設問を行った。これは、普通名詞と固有名詞により各沿線の地域イメージの構造における共通性と固有性の両面を明らかにしたいからである。

*キーワーズ；計画手法論、計画情報、地域計画、空間設計

**正員、工修、阪急電鉄(株)文化・技術研究所（大阪市北区芝田1丁目16-1、TEL06-373-5346、FAX06-373-5347）

***正員、工博、近畿大学理工学部土木工学科（東大阪市小若江3-4-1、TEL06-721-2332、FAX06-721-2353）

****正員、工修、近畿大学理工学部土木工学科（東大阪市小若江3-4-1、TEL06-721-2332、FAX06-721-2353）

*****正員、工博、山梨大学工学部土木環境工学科（甲府市武田4丁目3-11、TEL0552-20-8533、FAX0552-20-8773）

3. 調査の概要

本調査では、大阪市西部の阪急電鉄(阪急)神戸線沿線、東の近畿日本鉄道(近鉄)奈良線沿線、南の南海電鉄(南海)高野線沿線の3沿線を対象地域とした。

地域イメージの形成に関係する地物＝名詞群を自然／歴史・文化／産業・社会／都市施設／交通施設の5ジャンルごとに20～30個ずつ準備した。ここで名詞群は「山」「鉄道」等の普通名詞群(「」で表示)と"六甲山""阪急"等、地域に固有に存在する固有名詞群(構成地物、" "で表示)の二種類を用いることにした。普通名詞群により被験者が『まち』について一般的に抱くイメージ(アンケートの設問は『あなたの住んでいるまちのイメージ』)を把握し、一方具体的な構成地物の名前を用いることより、各沿線固有の地域イメージ(設問は『各鉄道沿線の地域イメージ』)の考察を意図したことに よる。

普通名詞群は、名詞と地域イメージに関する既往研究^{7,8)}の対象となったものをもとに、また構成地物については各市の基本構想・基本計画や市政案内、沿線ガイド等から収集を行った。収集した名詞群は、それぞれプレ調査を行い候補を絞った。調査に利用した普通名詞は121個、構成地物は阪急148個、近鉄・南海117個である。

設問は、名詞群を被験者に提示し、その中から地域イメージを規定すると考えられるものをジャンルごとに5個ずつ計25個選択させる(名詞群A)。次に選択された各名詞のイメージと最も類似すると考えるものを名詞群Aの中から選ばせる(名詞群B)。調査対象者は、地域に対する認識が深いことが望まれる。ここでは西宮市・堺市・東大阪市の市職員のうち各沿線の在住者、及び各沿線在住の大学生を被験者とし、それぞれが居住している沿線の地域イメージについての設問を行った。各沿線の有効回答数は阪急122人、近鉄112人、南海93人である。調査はまず普通名詞に関する設問を行い、次いで固有名詞(構成地物)について設問した。実査は1993年11月に行った。

4. 沿線イメージの共通性と固有性：想起率分析

各沿線ごとに有効回答数に対する名詞群Aの各名詞をイメージした人の割合を「想起率」と呼ぶ。想起率の上位30を対象にして、地域イメージの構成要素を認識するために、先ず大きく<コト>と<モノ>の二つに分類を行った。モノについては、ハードな都市施設や自然の地物等の主に景観イメージの形成に関わる名詞ということができる。一方、コトは人間の活動や情緒等に関わり、ソフトな分野に該当するということができる。

次に、コトに分類された名詞群の整理を行い、交通や産業に関する都市の<活動>、祭や歌劇等の<イベント>、花や草等の自然の彩りの<色彩>、夜景や景観などの<景色>、人物に関する<ヒト>の5つに分類した。また、モノについてはK.リンチによる都市イメージを構成する<バス>、<エッジ>、<ディストリクト>、<ノード>、<ランドマーク>の5要素⁹⁾に分類した。

表-1(その1)はコト・モノの分類に対応して、名詞群のうち共通して出現する普通名詞と、意味的・

表-1(その1) 3沿線に共通して想起率の高い名詞

	普通名詞	3沿線共通		
		阪急沿線	近鉄沿線	南海沿線
コト	活動	交通(60.47.45) 自動車(51.55.54) バス(36.38.41) 自転車(33.53.52)		
	色彩	緑(28.49.40)		
	ヒト			
モノ	バス	鉄道(61.60.54) 河川(63.50.40) 坂(49.42.29) 河川(63.50.40)	阪急(86) 河川(61.60.54) 河川(61.60.54) 武庫川(35)	近鉄(88) 南海(68) 東北高速鉄道(40) 阪神電車(30) 大和川(52) 紀ノ川(34) 阪神高速道路(28) 東北NT(63)
	公園	高速道路(42.32.44) 住宅地(89.68.87)	芦屋(48) 香取(40) 岡本(36) 甲陽園(30) 西宮北口(44) 梅田(29) 三宮(31) 宝塚ファミリランド ⁵⁾	中央環状線(30) 半園前(55) あやめ池(62) 難波(55)けみ(37) 上本町(33)難波(34) あやめ池遊園地(72) 奈良トラージョント ³⁾ (35) 生駒山上遊園地(66) 奈良公園(64) 校岡公園(35) 難波駅(39) 難波駅(51)
	商店街	商店街(38.76.47)		浜寺(46) 難波(56)けみ(40) 堺東(54)
	公園	公園(68.62.81)		みさき公園(46) 浜寺公園(48) 狭山遊園地(29)
	駅	駅(62.71.66)	南田駅(4) 西宮北口駅(44) 三宮駅(28) 河川(30)	上本町(33)難波(34)
	山	山(71.72.38) 木(49.60.45)	六甲山(68) 甲山(41)	生駒山(61) 若草山(38) 信貴山(37) 伊勢神宮(45) 石切神社(43) 東大寺(31) 近鉄百貨店(63) 近鉄ハグ(30) 関西学院大学(37) 近畿大学(36)
	神社	神社(63.71.65)	清光神(30)	高野山(72) 金剛山(46) 住吉神社(51)
	商店	商店(39.65.61) スーパー(64.55.66) 病院(30.40.30) 学校(58.60.45)	阪急百貨店(59) 三番街(28) いかりスーパー(30) 関西学院大学(37)	高島屋(72) なんばCITY(63)
	山			
	山			

注) ()は想起率(%)。3沿線共通の普通名詞については(阪急・近鉄・南海)

表-1 (その2) 各沿線で想起率の高い名詞

		阪急沿線		近鉄沿線		南海沿線	
		普通名詞	構成地物	普通名詞	構成地物	普通名詞	構成地物
コ	活動	おしゃれな街(37)		ハチコ(58) 工業(35)		ハチコ(55) 繊維工業(30) 重化学工業(27)	特等号(28)
	イベント		宝塚歌劇(75) ベアリスのばら(28)	祭(51)	ラグビー(36) 近鉄ハッパロズ(32)	祭(51)	岸和田だんじり祭(55) 堺まつり(33)
	色彩	花(37)	桜(52)		桜(35)		
	景色	景観(37)夜景(38)	六甲山からの夜景(44)	夜景(37)	生駒山からの夜景(56)		与謝野晶子(39)
モ	ヒト	新幹線(40)			阪奈道路(43)		国道26号(45)
	バス	バス(42)				海(37)	
	エッジ		神戸北野町寅人館(28)	田畑(44)	伊勢志摩(55) 鳥羽(37)	田畑(46)	二色の浜(48)
	ディストリクト	埋立地(29)	西宮スタジアム(55)	平野(32) 球技場(32)		埋立地(38) 運動場(29)	関西国際空港(45)
モノ	ランド	再開発(42)					
	ランドマーク					池(51)	堺市庁舎(38) 仁徳天皇陵(67)
		ショッピングセンター(26) 市場(29)	ヒッコラン前(29) 宝塚駅(42)	史跡(54) 飲食店(36)		史跡(56) ショッピングセンター(27)	南海サウナ・お風呂(34)

(注) ()内は想起率(%)

内容的にそれに対応する構成地物を整理したものである。表-1 (その2) は3沿線に共通では出現せず、個々の沿線において上位の想起率を示す普通名詞・構成地物を整理したものである。

表-1(その1)により、3沿線に共通するもので特徴的なものは、ランドマークとして「六甲山」、「生駒山」、「高野山」と「山」である。また、代表的な「ターミナル」では「阪急梅田駅」、「近鉄難波駅」、「南海難波駅」であるが、これら鉄道ターミナルよりも「阪急百貨店」、「近鉄百貨店」、「高島屋」の想起率の方が高く、「百貨店」の方が地域イメージに大きく関係していることがわかる。また沿線を代表する「遊園地」・「公園」や「住宅地」についても3沿線ともに高い想起率となっている。

次に表-1(その2)からは各沿線ごとの名詞群に着目することにより、地域イメージを特徴づけるものを抽出できる。これをまとめると、阪急沿線は、「宝塚歌劇」や「桜」のある「おしゃれな街」「住宅地」とイメージされており、さらに「西宮スタジアム」や沿線における「再開発」も地域イメージに関わるものとして意識されている。

近鉄沿線は、「ラグビー」が盛んな「工業」の街で、沿線には「伊勢志摩」、「鳥羽」等観光地や、「史跡」「神社」も多くあると考えられている。

南海沿線は、「岸和田だんじり祭」等「祭」が盛んな「工業」の街で「高野山」など「史跡」も多い。「関西国際空港」も沿線にあることが意識されている。

このように地域イメージを構成する因子は、例えば宝塚歌劇は宝塚市で、西宮スタジアムは西宮市に

あるように、いずれの沿線においても行政境界を越えたものから構成されていることがわかる。

また、地域イメージは物的なモノだけでなく「ラグビー」や「祭」などの活動も大きな因子となっていることを読取ることができる。

5. 地域イメージの特徴：イメージマップ分析

個々の普通名詞や構成地物の言語間の連想構造を把握するために、名詞群Aと名詞群Bを用いて、各名詞群間の連想関係について把握することが可能となる。この指標として連想ベクトルRikを定義した。すなわち、名詞群Aのi番目の普通名詞または構成地物に対して、連想された名詞群Bのk番目の普通名詞または構成地物の出現回数Nikを用いて、式(1)によりRikを求めた。

$$R_{ik} = N_{ik} / \sum_{j=1}^{I-1} \sum_{k=1}^{I-1} N_{jk} \quad (i \neq k, i=1,2,\dots,I-1) \quad \text{式(1)}$$

この連想ベクトルを用いてイメージマップを作成する。

ここでは想起率の考察に用いたコト、モノの分類に基づいて作成したイメージマップの例として南海沿線の普通名詞のものを示す(図-1)。これより住宅地と公園、駅と鉄道、商業施設等に強い連想構造があることがわかる。また、パチンコから駅や重化学工業から埋立地等が連想されており、コトからモノへの連想関係も認められる。

さらに、この連想ベクトルを用いることにより、注目する名詞に関する連想構造を詳細に把握することができる。例えば図-2は阪急沿線の構成地物であ

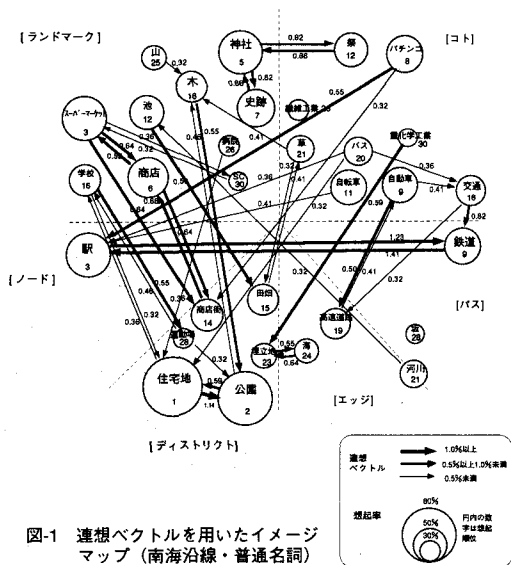


図-1 連想ベクトルを用いたイメージマップ (南海沿線・普通名詞)

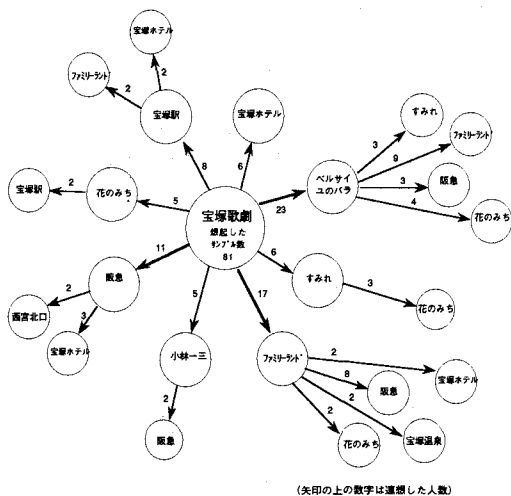


図-2 “宝塚歌劇”からの連想構造

る“宝塚歌劇”に注目したときの連想構造をである。

これによると、“宝塚歌劇”から“宝塚ファミリーランド”のようなモノや“ベルサイユのバラ”や“すみれ”等のコト等が連想されている。また、構成地物の中でも“花のみち”（駅から宝塚大劇場へのアプローチ道路）は、“すみれ”や“ベルサイユのバラ”など“宝塚歌劇”から連想される複数の構成地物からも連想されていることがわかる。したがって“宝塚歌劇”に対して“花のみち”は直接的な連想だけでなく、間接的にも強い連想関係にあり、重要な計画要素となりうることが理解される。

6. まとめ

地域イメージを構成する因子を把握するために物的なモノだけでなく社会・文化的活動であるコトにも注目し、鉄道沿線を対象に普通名詞と構成地物という二種類の名詞群を用いて、想起率と連想ベクトル（イメージマップ）による考察を行った。ここでは、その分析結果の一部を述べたが、鉄道沿線に注目することにより地域イメージ形成が行政境界を越えた地物も含めてなされていることがわかった。また、地域イメージを構成する因子については物的なモノに加えて活動等のコトも大きな要素であることも示唆された。

こうした考察をもとに計画要素として、これらの

地物を地域の個性を伸ばすために活用する方法を考えることが今後の計画を考える上での課題となる。
謝辞：本研究を遂行するにあたり多くの示唆をいただいた近畿大学佐佐木綱教授、また近畿大学大学院生栄健一郎君、西宮市・東大阪市・堺市の方々には調査に協力していただきました。心からの謝意を表します。

<参考文献>

- 1) Lynch, K.: The Image of the City, MIT Press, 1960. [丹下健三・富田玲子訳, 都市のイメージ, 岩波書店, 1968.]
- 2) 志水英樹：街のイメージ構造, 技報堂出版, 1979.
- 3) 西井和夫・佐佐木綱：風土分析にもとづく都市・地域計画の新たな展開, 土木計画学研究・講演集No.15(2), pp143~147, 1992.
- 4) 佐佐木綱・堀田治・竹林幹雄：文学を利用した地域計画に関する考察, 土木計画学研究・講演集No.12, pp143~149, 1989.
- 5) 西井和夫・鈴木康仁・古沢経夫：地物の類似度に着目した地域イメージ構造分析：甲府と東山梨への適用, 山梨大学工学部研究報告No.42, pp105~114, 1991.
- 6) 前掲5)
- 7) 佐佐木綱：女らしさ・男らしさ 計画の視点より, 淡交社, pp7~38, 1988.
- 8) 西井和夫・川崎雅史：女性性・男性性イメージに関する国際調査の概要と基礎集計結果, IWPF（風土分析国際ワークショップ・イン京都）1990年, pp.79~97, 1990.
- 9) 前掲1)